

国際ロータリー第2570地区

行田ロータリークラブ

RI会長：カール・ヴィルヘルム・ステンハマー / ガバナー：野中 弘之

会長：内山俊夫 / 幹事：山本憲作

例会日：木曜日

午後12時30分開会

会 場：アドバンテスト

行田クラブハウス

クラブ会報委員会

委員長：境野登章 / 副委員長：廣川和夫

委 員：島田修、鈴木貴大、田中敏男

石渡健司、小菅克祥、廣世雅昭

2005～06 国際ロータリーのテーマ

「超我の奉仕」



SERVICE Above Self

第1940回 夜間例会 (9月29日)

会長挨拶 内山俊夫 会長



皆さんこんばんは。めっきり秋らしくなってきました。

「愛・地球博」が25日に閉会いたしました。2204万人以上の入場とのことでした。当クラブも入場者向上に協力したわけではありますが、私も4回まいりました。ロータリー館に多くの会員がメイクアップをしてくださいました。

地球の叡知をテーマに開催されたわけではありますが、当クラブにおきましては、7月7日の七夕例会にて地球温暖化防止のための「チームマイナス6%」を宣言いたしました。この夏は暑さが厳しく、今年はやりましたノーネクタイのクールビズで首もとが楽でありましたが、このところ、ネクタイをあらためて致しますと、少々首元の苦しさを感じております。

また、今回の活動では、会員の皆様にもご協力いただき、例会場に於いては室温を28度の設定と致してまいり、暑い会場にもかかわらず例会に出席いただきましたが、まちがいがなくCO2の削減になりましたことを感謝いたしております。

この処の原油の高騰により、皆様の会社に於いてもガソリンの消費を抑える努力をされたかと存じます。地球資源を大切にしよう意識をもって行動する事により、地球環境を保護し未来の子供たちの為に残していけることが、今を生きる私たちの責任であり、大きな意味でのロータリーの奉仕になると確信いたします。

本日は証券協会カウンセラー、本川勲夫様にお越しいただき「儲かる投資」につきましてお話をいただきます。お話を聞き儲かった方は是非ロータリー財団等にご寄付をいただき、未来の青少年、地球の為にお役立ていただければ幸いです。

卓 話 本川勲夫 様

講師紹介 坂本委員長

みなさんこんばんは。

もう3年ほど前に私、会員卓話で株の話をしていただいたのですが、覚えていらっしゃるでしょうか。そういう方いらっしゃるかな。住金を薦めたんですよ。50円位だったかな、70円位で薦めたのかな。それを私も売ったり買ったりして、今年の夏高いから売っちゃったら、それから200円位高くなっちゃって、430円位ですか今日。信じられない。逃がした魚は大きい、悔しくて悔しくて、それまではちょっと儲かって良かったなとゴルフの会員券を買っちゃって、そしたらなんだか悔しくてしょうがないんですよ。

本川さんにお話を聞いて、こういう風に強くなるのは2ヶ月前に予想していましたか？と聞きましたら、ええ私は予想してはいたって言うんですね。7ヶ月前にこの会を開くべきだったなとつくづく悔しい思いをしております。

本川勲夫さんを紹介させていただきます。秋田県出身、秋田高校卒業後、福島大学卒業、大和証券入社、金融法人部、大宮支店債券部、事業法人部を経て各支店長総合法人部、支店法人部、大和投信等を経て、16年6月に退職されております。

非常に詳しい方でございますので、ぜひみなさん10分でも20分でも延長して、儲かる話を聞いて頂きたいと思っております。

それでは本川先生、お願い致します。

ただ今御紹介頂きました、本川です。本日は大変皆様のロータリークラブにお招き頂きまして、大変光栄に存じております。私も久しぶりにロータリーの歌を歌わせて頂きました。

昨年6月をもって40年余りの証券界終わりまして
(次頁へつづく)

今現在、先ほど御紹介頂きました様にエイプロシス、これはNPOで御座いますけれども、日本証券業協会の外郭団体で御座いまして投資教育を普及する会、数年前に立ち上ったので御座います。

けれども特にですね、中学校、大学は勿論ですけど、あと一般のカルチャーセンターですとか、初心者に投資教育を教えると、ですから皆様方はですね、もう投資教育は終わっていらっしゃる方ですから、久しぶりに違ってお話ができるのかなと、今までは初心者に視線を合わせた話で御座います。

けて株は、我々は薦めない。相場感も語れない。あの誤解されてしまうと困ります。その辺は、皆様方は、完全に自己責任がパーフェクトに出来上がっておりますので、今日はちょっと踏込んだお話を申し上げてみたいというふうに思っております。それで急遽、お手元に資料を用意させて頂きました。



今なぜ株式投資かという事で御座います。先ほど会長さんからもお話が御座いましたけれども、今日も新高値を付けました。4年4ヶ月ぶりで御座います。大変なにぎわいで御座いました。

売買金が6兆円、それから売買高もですね30数億というふうな格好になっておましてですね、たぶんですね私は、続くだろうと思います。結論から申し上げますと、なかなか崩れない。で、皆様方は既に投資をやっているからおわかりだろうと思いますが、最近おやりになっている方、特に例えばデイ・トレーダーとか或いは信用取引でやっていらっしゃる方、あれをよく御覧になりますとね、あの異常な現象が起きています。

例えば信用取引っていうのは、短期売買をやる方ですよね。売った方は半年後に買い戻す、買った方は半年後に売り戻す、という約束事ですねやるのが信用取引、いわゆる全てを借りて株を借りて売買する。今は無期限というのが一部でしておりますが、あの売り残、買い残を見ますとね、3兆円なのです。

売り残が昨日の発表になりましたが1兆6900億、これはですねあのバブルの時とほとんど変わらない、それより超えているのかな。バブルの時ですね、買い残が10兆円あったですから、短期売買でやっていらっしゃる方は3人が買っている、1.7人が売っている、つまり1.7人が安いと思っている。これがかつてない現象でしょう。

おそらく日経のですね、株式市場欄を御覧になって、あの逆日歩っていうのがですね、逆日歩銘柄が

異常なほどついているのですね。逆日歩っていうのは、株券を借りて売っている方、株券がですね、証券会社とか日証金という所に株券がなくなってですね、よそから銀行とか政府から、調達するために逆に、金利を払ってですね、借りてきている。ですから売り方は毎日、逆日歩が取られているという現象が起きています。どんどん売り方が締上げられ、ですから皆様方がですね、おそらく安くなったら買おうと思ってもなかなか安くない。

今日もですね、朝方30数円のダウ、今日は安くなるのかなと、たぶんならないだろうと案の定、午後181円ですか、そういう現象がここ連日起きている。つまり安くなった所はその売り方がですね、怖くなって買戻している。更に勇気のある人は、それを売りませしているというのが、ずっと続いている。これはなにか、バブル平成元年12月からですね、38,915円からずっと下げ続けて来ている。ですからこの15年間で、株をやっている方はですね、株は上がらない物だと。特に目先をやっている方はですね、非常に空売りが上手なのですね。

あの兜町にはですね、ディーラーが3,000人いますが、若い人はですね、全部売りから入っています。株は上がる物ではない。そして、1分1秒を争って売買をしています。こういう現象が今、正にでている。ですからなかなかですね、この形は崩れにくいじゃないかというのが私の考え方です。

ですからよく御覧頂いてですね、この売り残、買い残の動向、これは毎週発表になりますから、毎週火曜日に発表になりますから、よく見て頂きたい。このバランスがですね、あの普通はバブルの時はどうかということ、買いが10に対して売りが1なのです。10人が買っていると売っている人が1人という10対1のバランス、これがだいたい正常なバランスですね。

ですから今、完全にそれが崩れている。それをですね、実はそれを無視して買っているのが、ご案内のように外国人なのです、外国人。これはもうここ20年、10年じゃ御座いません。20年ずっと買い続けているのです。兜町でもですね、今、発行株数のなんと25%、25%はですね、外国人が持っている。

ご承知の様にあちこちのゴルフ場はですね、外国人が全部買いあさっておりますね。それから土地そうです。ですから完全グローバル化の中でですね、外国人が日本を目指している。オイルダラーが入って来ている。でこれを評価しなきゃいけない。で彼らは半端じゃないです。なぜ半端じゃないか、彼らは地球規模で物を見ています。そして実績が上がらなかつたらですね、即クビです。クビです。日本の運用担当者はほとんどサラリーマン化しております。私も運用会社に何年かおりましたけれども、どうしてもこの形を崩せない、ですからなにが起こるか赤信号、皆で渡れば怖くない。つまり他の銀行さんがやっていると同じ様な、他の生保さんがやっていると同じ様な形が出来上がってしまう。

まあ最近ですね、100億、年収100億のファンドマネージャー飛出して来た。日本人でですね。まあこういう方もちらほら見えはじめておりますけれども、そういう今、現象で御座います。もっとですね、ちょっと具体的に申し上げてみたいと思うの
(次頁へつづく)

ですけど、1枚目の表を御覧頂きたい。

まあご承知の様に戦後ですね、東京証券取引所は24年5月にダウが176円、これは225銘柄の平均です。176円からスタートしました。勿論、いろんな歴史的な変化はございますけれども、平成元年12月、38,915円まできた。このときですね、一体何が起こったかというのが、ここに書いてあります様に経済が正に高度成長期であったと、それからほとんどインフレの時代なのです。

3番目に銀行を中心とした間接金融。ご案内の通りで御座います。そしてほとんど発行株数の7割方がですね、企業と銀行、或いは生命保険、いわゆる持合構造がですね7割を占めている。3割程度しかなかったというのが日本の株式市場の特徴でございます。

しかしながらご案内の様にバブルがはじけました。そこで何が起こったか、いわゆる株式の持合が溶け合っている。この下げ過程の中でですね、銀行、或いは企業、生命保険会社、どんどんはずして来ました。売ってきました。まあいろんな事情があります。ご案内の通りですけども、売ってきたそれを肩代わりしてきたのが、外国人です。

ここでですね、案外気がつかない事があります。当たり前の事なのですが、38,915円平成元年の12月付けました。出来高が20億、30億あったか記憶に御座いませんけど、かならずですね、売った方と買った方がいらっしゃるという事なんです。始めてそこで成立する。

でこれは、今後株式投資をやる場合のコツです。自分が買おう、買った値段は誰か売っているのだということですね。売っているには理由があるはずです。買っている方は安いと思って買っている。我々はここに38,915円の時にですね、大変現場にいて厳しいお叱り受けました。お前がこういうタイミングで進めたから俺は買ってしまった。どうしてくれるのだ。と、色んな事を言われ大変辛い思いをしました。

しかし私は、耐えられたのはですね、いや半分の人は売ったのだと、半分の人は逆に喜んでいてのだと、でこの人達は言ってくれないです。兜町にですね、儲かる人語らずという言葉があるのです。儲かる人語らず、ですから近くでですね、儲かった、儲かったと語っている人はあまり儲かっていない。

競馬で勝った、パチンコで勝ったというのはですね、よくいらっしゃいますけど、あまり勝ってない。本当に儲かっている人は、物言わないそうです。そういうことわざが、長く続いている。したがってですね、なかなかお褒めの言葉は頂けなかったのですが、要するにマーケットというのは、売り方がいれば買い方がいるのだ。全員が、自分が買おう思う時は全員が買っているのだ、と思うのです。錯覚です。錯覚です。

今日、36億も出来ています。36億株、反対に売っている方がいるのだという事をですね、今後売り買いする場合は常に心にですね、肝に命じてやる事が私はコツだと思います。

で、今ですね、この持合も大変崩れてまいりました。銀行さんもですね、ほとんど売る物がなくなって、かつてピークはですね、銀行さん99兆円位持っていました。今ですね、16兆、16兆位。比率で言い

ますとですね、マーケットの6%位。平成3年の3月末で8%ですけど、今現在は6%。ほとんど、もう売る物が無い。

逆にですね、今大変に国債持っています。1.4%の今日あたり1.4%ですけども、1.4%の国債を持つよりは株を持った方がいい、という動きに多少変わってきている。でそれは何か、これは今現実に起きている事なのですけども8月8日にですね、国会解散になりました。あの時は関係者はですね、ほとんど株は安くなる。小泉さん勝てないだろう。外国人が売ってくるだろう。こういう瞑想が働いて、前の日含めて随分安くなった。

しかし私は先ほど言いました様に、信用取引の取組みが異常になっておりますから、そんなに下がらんのじゃないかな、むしろ逆になる可能性がある、いうふうに私は思い続けておりました。でたまたま8月8日にですね、我々仲間ゴルフが有りましてね、3人の方が朝一番で売ってきて、私は実は、買っている。で、その時多分午前中は安いけれども、午後、締まるんじゃないかと、まさかプラスになるとは思わなかったですけども、プラスになりましたね。これは明日から変わるぞ。ところが、ご案内の様に高校野球ですね。お盆です。非常に例年は閑散期で御座いました。国内勢は全部つんぼさじきにおかれている。ですから今慌てて買い直しているのが、国内勢です。

ところが、なかなか高所恐怖症でですね、なかなか手がでない。手がでない。これはもう、ほとんどそうです。そのうちですね、手がでないうちはいいのですが、ダウが15,000円とか、その辺になった時、えいやっ と買った時ですね、或いは天井付けるかもしれない。或いは20,000円かも知れない。で私はですね、次のページを御覧頂きたい。なぜ、なぜですね、これが大底付けたかと、最近はですね関係者殆ど大底付けたと言っていますけど、私はですね、このバブルがですね、はじめて平成4年8月14,309円までできました。で、その間ですね、今まで4回、20,000円に挑戦しているのです。

ご承知の様に歴代の内閣は大変な景気対策をやった事はご記憶にあると思います。実にですね、この平成4年の8月の総合経済対策、10兆7,000億、13兆2,000億、6兆2,000億、15兆2,000億、7兆7,000億、14兆2,000億、そして平成10年10月、23兆円、90兆から金を注ぎ込んだのですけれども、浮上しなかった。よく考えてみますとね、デフレなのです。デフレなのです。あまり政府はデフレという言葉、好みません。自分達の失政が指摘されるという事でありデフレという言葉は、最近では使いますが、当初もう突入していたにもかかわらず、デフレという発言はなかなかしなかった。

デフレというのは、ご案内の様に物の値段が下がる事なんです。デフレで株が上がるという事の方がおかしい。これがまず、結論なのです。で、私は、そしてこの平成15年、2003年の4月、7,607円もう、とうとう金もない。

小泉さん何かしましたか。何もしない。証券税制をちょっと手直ししましたね。証券税制。

(次頁へつづく)

しかし、戻ってきたということは、自立的に戻る。マーケットというのは、生き物なのです。自立的に戻ってきたという事に意味がある。何かをマーケットは予見している。株式市場というのは、ご案内の様にですね、景気の6ヶ月から9ヶ月先行すると言われております。過去ずっと検証するとですね、6ヶ月から9ヶ月、検証すると。何かを感じたはずですね。

で、これはですね私は、何もしなくて戻ってきたここから私は完全に、実は、今だから言って変なのですけど強気、まあずっとどちらかという株や強気なのですけれど、この辺は私は、ある面では大底を打ったという感覚もっています。というのは、ご記憶あるかと思えますけど、昭和40年の証券不況の時を思い出して頂きたいのです。昭和36年戦後ですね、7月ですけども、ダウは1,829円付けてずっと下がって参りました。39年にたまたまですね、株式市場対策、共同証券設立です。それでも止まらない。日本証券保有組合設立、12,000円を何とかしよう。当時の金で確か2,000億台だと思います。2,000億台といいますがね、おそらく今、それに、2桁位0がつくのではないのでしょうか。大変な金なのです。これは議論されたのです。あの1万円割る時にしかし、とてもじゃないけど金が無い。どうしようもない。これだけのマーケットは支えられないという結論に達した。それでも1,200円が実は守れなかった。で、そこでずるずるきてですね、昭和40年の7月、7月12日ですけども、1,020円です。我々の仲間はずんずん証券会社を辞めていきました。もうダメだ。もう1,000円を割る。

ところがあの時に福田さんが、戦後始めて赤字国債を出す。総合経済対策も出ました。そこをきっかけにですね、相場が戻っていった。ある面では自立的に戻ったという事ですね。1,020円から38,915円まで繋がっていくという格好になったわけです。私はその時とですね、実によく似てるのではないかと。要するに自立的に相場が戻ってきた。これが私は、意味する事ではないかと。

それと、今現在マーケットはですね、小泉さんの構造改革とか色々な物を買うといっていますけれども、むしろ、デフレ脱却を買っているのではないのでしょうか。デフレというのは自由主義経済におけるですね、大変な病で御座います。人間ではある面では、ガンと一緒にですね。非常に治りにくい。

で、10年ほど前にですね、お医者さんにインフレとデフレの話をした時にその先生は、低血圧と一緒にだね。という事を言いました。私もよく分かりませんが低血圧を治す薬というのはないそうです。高血圧を抑える薬は沢山ある。インフレは対処療法がある。

かつて歴史的にですね、デフレというのは何十年に1回起きていますけど、なかなか功を奏しない。というのは歴史が示しております。それがようやくですね、私は、脱却が近いようやく政府当局も発言にデフレ脱却という言葉を使い始めてきたのですね。

具体的に申し上げますと、土地の値段が首都圏からですね、立ち上がってきた。不良債権がもう2.9%まで落ち込んできた。それともっとあれなのは、銀行貸出これが8月、特殊な要因を除きますとですね、プ

ラスに転じた。

ゼロ金利でずっと続いてやってきてですね、金が回って行かないという事は、明らかにこれは、自由主義経済では病気の状態なのです。これがようやくプラスに転じたということは、それをですね私は、株式市場は先に読んでいたのではないだろうか、政府当局が、完全に脱却宣言したら私は20,000円じゃないかと、つまり20,000円を割る時という議論があったかといいますが、日本はデフレじゃない。だから20,000円を割らないのだ。という議論があったと思います。

我々もそれを信じました。しかし、その後これはデフレだと言ったとたん20,000円を割ってしまった。物の値段は全部下がってしまった。

ご承知の様に世界各国見てもですねデフレというのは、日本だけです。原因を色々探していますが、学者で論争しているのです。で、行き着くところは、どうも日本国民のですねマインドにある。デフレマインド。

例えば物を買おうとする時に、来年はもっと下がるもっと先に行けばもっと下がる、こういう心理が働いているですね。この逆の例がインフレマインドですね。トイレットペーパーを全員が行って並んだ、あの心理状態です。ですから私は今のマーケットは小泉さんを買っているという事よりもデフレ脱却、外国人はそれを見ているのだろう。しかしいづれはですね、ゴルフ場も株もですね、彼らは売ってきます。ですからその時は誰が買うのでしょうか。



私は20年ほど前からですね、金融担当だとか、色々法人を担当しました。なんで外国人の投資行動を参考にしないのですか。提灯を付けないのですか。兜町で提灯を付ける彼等が買うと日本人が売るのでですね。彼等が売ると日本人が買うのですね。こういう図式がここ20年続いているのです。日本が負け組外国人が勝ち組という状態がずっと続いています。

今、朝、寄付け状態で寄付け前にですね外国人が売買、さっぴき十か一かというのは、毎日発表になります。で、8月だけで言いますとですね、概ね2兆円買い越しているのですよ。

日本人はですね、お盆、高校野球ほとんど休みの状態の時、彼等は買いあさっているのですよ。8月4日から2,000円上がりました。それでもなお彼らは買い続けています。ですから外国人の動きはですね、ずっと見て頂きたい。マーケットを見る時、

(次頁へつづく)

仕手、仕手というのは主役という意味なのです。今、主役は外国人なのです。ここ20年、外国人の投資行動を見るべきだと思います。

で、前後しますけど株式投資で一番失敗するのは、例とはなにか、人の話を鵜呑みにするタイプ、損するタイプ証券会社が言ったから買い。隣の奥さんが買ったから。買おうと言ったから買おう。これはですね、ぜひ、ひとつ参考にして下さい。

強気だったら弱気の意見を聞く。そして自分の意見、最終的には決める。これは、あとですね事例をもってお話申し上げたいのですが、3ページを見て頂きたいにですが、いったいここ96年に橋本内閣が金融ビッグバン、5年でなんとかすると言っていたのですがついに、ペイオフは今年までかかってしまいましたけれども、かなり大胆に改革しております。まず委託手数料の自由化。

今、100万買うのにですね、安い所は手数料が500円台、高い所で9,000円台位の幅があります。それぞれ特徴御座いましてね、ネットいわゆるパソコンで売買する。片一方は対面販売。

大きな証券会社なんかは対面販売。それぞれ長所、短所がありますからこの辺の使い分けはですね、よく使って頂きたいのですけれども、私は水戸支店に赴任になった時ですね、こういう事があったのです。

実は大変大きなお客様がですね、若い営業マンが担当していた。あんまり株は上手ではないのですね。で、社長担当者代えましょうか。と挨拶に行った時、彼はまだ未熟でね、あまり株式市場の事も分からないから担当者代えましょう。社長は、いや気になることは無い、彼は大変参考になる。どう参考になるのですか。いや彼が買えと言ったら俺は売るのだ。と、売れと言ったら、買うのだ。

これは正にね、そういう活用がある。それぞれそういう活用がある。営業マンの活用の仕方ってあると思うのですね。株式投資家の基本って最終的には自分を知れという言葉がある。自分はさっき言ったように慎重なタイプなのか鵜呑みにするタイプなのか、優柔不断なのか、性格があるはずです。そこでタイミングが狂ってくるのです。自分の無い物を相手に求める。営業マンにそれを求めたらいいと思うのですね。

で、その社長は随分参考になった、反対やって儲かっている。と言うのですから、大変な良いアドバイザーでもあるわけですね。そういう風にお考えになった方が良くと思いますね。

今、単元株の引き下げになっておりまして、売買単位は企業が自由に決められますから、どんどん今、買い易い状況になっている。それから証券税制が改正になりました。損益が通算になりまして損もですね3年間繰り延べできる。それから配当金に関して売買益に関して、わずか1割、10%の税金しか掛りません。これは、ただし暫定措置で御座いまして、売買益に関しては平成19年の12月に、それから配当金に関しては平成20年の3月に。暫定期間。これは優遇措置です。

今、ご案内の通り郵便局でも銀行預金でもですね、2割掛っております。半分です。で、配当金に関してはなおかつですね、申告しますと課税金額が1,000万以下はテンパーセント配当控除されますから、ほとんど無税。これはですね、法人税で持って

行かれます。株主配当してですね、また税金を取るという二重課税の問題がですね、これは昔から問題になっております。で、配当控除という制度。これを丹念にやっていますとね、配当金は、ほとんど税金が掛らない。1,000万円以上でも半分は戻ってくる、という事で御座います。正にディスクロージャーの時代で御座います。

もう情報は沢山取れます。それから今、日本版401Kですね。これは今の若い人達はですね、確定きよしつ金、自分の年金は自分で運用する時代。いまこれは1,500社、150万人。150万人の人が、投資教育というものをきちんとされたうえで、制度が施行される。

したがってですね、株式市場の仕組み、等々はですね十分承知している若い人達が増えたという事なのですね。これは私は、意味がある。それから先ほど言いました様に、私共もですね小学校、中学校、学校教育にですね、今これを持ち込んできています。

株を買えと言うはなしではない。株とは何か。株式市場の仕組みは何なのか。市場経済というのはどういう事なのか。いう話をさせて頂いております。

それから窓口販売の多様化。今、銀行さんでもですね、投資信託が販売されている事はご承知の通りです。今、株式投信は33兆円あります。そのうちの51%はですね、銀行さんで売られています。もう6年経過しましたけれども、銀行さんが16兆以上販売している。今、預金が330兆ですから4.8%、6年で4.8%。

実は10月3日、来月ですね、来月の3日から郵便局が投資信託を販売する事が決まっています。全国575局、そして約7,000人のですね郵便局の局員の皆さんがライセンスを取って猛烈に勉強いたしております。私も何回か研修に行きましたけど、大変熱心です。大変はりきっております。

で、ご案内の通り郵便預金は210兆あるわけですから、これが数年のうちにですね10兆円位、株式市場に入ってくると、こういう窓口販売が大きく広がってきている。これも大きな意味のある事じゃないかなと。

金融商品の一体化でこれも今、検討されている問題で御座いますけれども、ペイオフ、これによってですね、随分株式市場に流れてきている事は事実で御座います。

で次のページは、これはあの個人の金融資産の海外との比較で御座います。ご案内の通りですね、先進国で最低で御座います。

5ページを開いて頂きたいのですが、株式投資の魅力で御座います。株式投資の魅力はですね、売買益、配当金、それから株主優待、無償分割、まあ色々なメリットが御座います。

6ページを御覧頂きたいのですが、過去にホンダ、ソニー、任天堂、セコム、長く持っている大変な値上り倍率になっている事はご案内の通りで御座います。じゃ最近はどうなのか。

例えば最近ではヤフーですね。ヤフーは1997年、ですから今から8年ほど前に上場致しました。その時の、97年の時の高値が1億6,700万、1株ですね。安値が154万なのです。今その1株をずっと持ち続けていたと仮定しますと12回、この

(次頁へつづく)

9月末含めてですね、昨日、一昨日分割落とししましたけれども、4,096株になっているはずなのでですね。1株が今130万で御座いますから、5億数千万。5億数千万になっている。つまり1億6,700万高値で買って儲かっているという事なのでですね。

まあ実は2000年の1億ぐらいの時にですね、ある証券会社の店頭で20代の若い女性がヤフー1株売って下さい。明らかにみて20代のお嬢さんが1株売って下さい。で、調べたらヤフーの社員だったと、売りますか。売ります、私もう1株ありますから。そのお嬢さんはですね、はたしてそれが持ち続けられたかどうか。これが問題なのです。持ちこたえられないのです。

そこでですね、実は7ページご覧いただきたいのですが、株式投資の心構えといいますが、3つの余裕という事を我々、うたっております。資金の余裕、資金の余裕あたりまえです。資金の余裕です。生活費とかですね、商売に使う金を注ぎ込んでなかなか勝てない。

それから時間の余裕です。もっと大事なものは心の余裕なのです。こんな当たり前じゃないかという事なのですが、実はこれはですね過去の相場の歴史の中で、大変ですね相場師と言われた方で成功された方、失敗された方、沢山いらっしゃいます。失敗された相場師の多くはですね、最後は生活費いわゆる事業のお金まで注ぎ込んで最後は悲惨な目にあったという例が沢山あるのです。

ここで私はですね、一つの例を申し上げておきたいと思っておりますけれども、ご案内だと思っておりますけれども、地元ですね、あの福沢桃介さんですね。福沢諭吉の娘婿さんですね。吉見村の出身だったそうで、明治元年生まれ、1868年生まれなのです。1938年70歳生きた。彼はですね大正元年に欧米のその証券市場を書いた物の本が残っているのです。そこに書いてあるのです。大変な実業家である事は間違いないのです。中部電力、電力王と言われた、中部電力を立ち上げた人であり、大変な実業家。

しかしなぜ彼は相場師として、名を残しているのか、彼は15歳の時に上京しました。慶応義塾に入り、大変、福沢諭吉の奥さんから見初められ、大変美男子だったそうですけれども、ぜひ家の娘にという事で次女の方と結婚されました。で実は27歳の時、肺結核になるのです。

その前、北海道炭鉱、名門である北海道炭鉱に入社している。肺結核を患って療養を余儀なくされてその時に彼は何を考えたか、寝て儲かる方法は何か、株だ。彼はその関係の本を読みあさったと言われてます。多分、本間そうきゅうの本を何回も読んだと思うのです。

本間そうきゅうは何を言っているかと言いますとですね、本間そうきゅうはまず、仕掛ける前に自分が投資する前に方針を立てなさい。彼は山形の酒田の人ですけれども、米相場です。100戦100勝と言われている。これは沢山書き物が残っている。

そして二つ目はですね、決断する時は三日待つべしと言っているのです。これはどういう意味なんだろうか、我々よく考えて見ますとですね、セールスに進められると、分かったとすぐサインしてしまう癖がある。で一晩考えて、しまったと。つまり自

分が投資しようと思う時に、三日待つべし、三日間あるのです。冷静になりなさい。という事を言っているのです。ですから三日待つ必要はない。一晩だけです、冷静になった時に同じ気持ちなのか、これが大事だ。

この2つをですね、大きく、この2つを残しているのです。彼は、福沢桃介はですね、それを物凄く参考にしたんだろうと、実は27歳の時3,000円の預金があったと言う。3,000円と言いますとですね、今で言う3,000万なのだそうですね。預金。そして立派なのはそのうち1,000円だけを株式投資する。つまり1/3を投資するのです。それをですね、明治27年ですから日清戦争の勝利宣言掛けた。その時に彼は1,000円投入する。実は1年足らずで、10万円ですね。10億、10億儲かります。

もっと彼が凄いのは、その後10年間、株式投資をやっていない。そしてまた登場したのがですね明治38年です。日露戦争です。日露戦争に彼は掛けて250億、250万儲かります。これで実業界にのして行きます。

ところが、エピソードがありましてですね、明治38年の時に友達である松永やすぎえもん、彼は追証に追いまくられたと言うのです。ところが福沢桃介は芸者を連れてもう手仕舞いして、温泉を渡り歩いてたという記録が残っている。つまり同じように友達が同じようにやっています、方や負け組方や勝ち組になっている事実ですね。

兜町ではですね、逃げの桃介。つまり腹八分で逃げている。そして彼は人生においてたった2回、記録には2回、そして大変な実業家としてですね、名を残している。こういう記録が残っている。

彼は何を残したか、銘柄を間違うな、銘柄を間違うな、当たり前の事です。タイミングを間違うなど言っているのです。腹八分。ぜひですね、それは心掛けて行かれた方がよろしいと思うのです。

で、こういった相場師のですね、相場師の成功事例を今流に解釈したのが、こういうこの3つの余裕とか或いは銘柄分散しなさいとか、時間分散しなさい。こういう言葉になっているのです。

時間も御座いますので、もう一つ事例をあげますと、最後の相場師と言われたのが、是川銀蔵。平成元年からわずか6年、平成7年まで彼は株式投資に全力投球した。実に79歳でスタートしているのです。今、証券会社へ79歳で行きますとですね、信用取引認可してくれないかも知れない、郵便局行ってですね投資信託買いたいと言いますと79歳ですと営業責任者つまり局長のですね了解事項になっております。かなり年齢制限厳しくなっておりますけれども、そこにもヒントがあるのです。彼はですね、その時は、平成元年の時ですね、あまり兜町では噂になっていないのです。日本セメント、赤字会社である日本セメントをですね1千万株買うのです。1千万株120円位の所をずっと、1千万株ずっと買うのです。そして1年後ようやく日本セメントが収支、とんとんになって330円。200円1千万株売って兜町で有名になったのです。

これは、なにを見たか。正に業績の変化率を掴んだのです。で、当時かなり彼はあの85歳までやる
(次頁へつづく)

のですけれども、94歳で亡くなるのですが、テレビ対談や雑誌などでも言っております。彼はなぜ日本セメントを買ったか。当時あのオイルショックで大変不景気で、政府は景気対策をやる、そうするとセメント市況が上がるだろうと。今、赤字けれども相場は黒字になる。で、それに掛けたのです。これも見事に200円切をとって1千万株売ってしまう。

その次に有名になったのが、住友山ですね。住友鉱山で彼は日経新聞のわずか数行の記事、これを参考にしているのですね。つまり住友鉱山の子会社が九州の光銅山で新鉱脈を発見した。そのわずか数行の記事に反応したのですね。もっともかれは鉱山経営をした経験があつてですね、銅市況を50年間、毎日グラフに付けていたという方ですから、見事に反応するのですね。で買ってですね1,000円台で売る。250億ですね。わずか6年間の間にですね、300億近く。元手はですね10数億と言われていま

すね。眼光紙背に徹するほど、という表現をしていますね。ただ漫然と読まない。世の中がどう変わったのか。この材料でどうなるのか常に頭で描いて、そしてよんで、そして50年間、商品市況をずっと見ているのですね。そしてグラフを付けているのです。こういう事を彼は言い残している。ですから私らは、初心者の方にはですね株をやりなさいとは言いません。株式投資に興味を持って下さい。経済記事に関心を持って下さい。これを通じてですねマーケットを通じて、世の中が見えてくるという事なのです。

株式市場といのは、正に森羅万象の材料が全部織り込まれていると言われています。そして6ヶ月から9ヶ月先行すると言われています。何かマーケットは語っているのですね。語っているのです。ですからその語っている事を聞ける、どの程度聞けるのかという事がポイントではないかと思います。これは商売にも繋がる事ではないかと思います。そしてある家庭の主婦がですね、協会で川柳を募集した時にですね、彼女は証券投資をやつて川柳を書きました。優秀作品になった川柳が、『世の中が見えて来るかも証券投資』。

それが第1番やはりそういう家庭の主婦でもですね、マーケットをやる事によって何か他のものに関心を持っていく。まあこういう時代に入ってきたのかなと感じておいます。

最後にですね、ウォール街の格言が御座いますけれども、これを常に肝に銘じているのです。

で、ウォール街で大変苦労されたファンドマネージャーなのか相場師なのかわかりませんけれども、相場というものは悲観の時に始まるのですよ。懷疑、疑わしい時に育つのですよ。そして、楽観状態の時に成熟していくのですよ。そして、幸福感で消えていくのですよ。という格言があるのです。私は正にマーケットというのは、この変化だと思います。この4つの変化だと思います。

今、実は幸福感なのです。或いは懷疑の状態なのです。これを見極める事によって人それぞれ異なってくるのです。私はよく結婚式のスピーチでこれを持ち出して、響きをかいた記憶があるのですけれども、あなた方は幸福感の絶頂ですけど、これ以上はないんですよ。すぐ悲観が訪れますよ。疑わしい時が(次頁へつづく)

ニコニコ報告

- ☆内山会長…読書の秋となりました。
本川先生のお話して儲かった方は是非、ロータリーへ寄付しましょう。
- ☆山本(憲)幹事…株式を研究しましょう。
- ☆渡辺会員…本川様、本日はおいで頂き有り難うございます。
白河クラブの皆様お世話になりました。
- ☆永島会員…RC前会長、黒淵陽夫様、教育委員に専任され誠にありがとうございます。期待しています。
- ☆小山会員…株価本年新高値、これからも上がります。お勧めします株式投資。
- ☆坂本会員…本川様、本日は有り難うございます。
- ☆黒淵会員…本川様、本日は有り難うございます。
- ☆湯本会員…富士見様、本日はお世話になります。
- ☆富田会員…本川様、本日は有り難うございます。
- ☆中島会員…本川先生、卓話有り難うございます。
- ☆武田会員…本川先生、卓話有り難うございます。
- ☆福島会員…子育て奮闘中です。
- ☆小川会員…黒淵陽夫さん、教育委員ご就任おめでとう。
- ☆斉藤会員…本日は富士見をご利用いただき有り難うございます。
- ☆森島会員…本川先生、卓話有り難うございます。
- ☆島崎会員…本川先生、卓話有り難うございます。
- ☆大野会員…本川先生、卓話有り難うございます。
- ☆清水(治)会員…本川先生、卓話有り難うございます。
- ☆小池(利)会員…本川先生、卓話有り難うございます。
- ☆古沢(勇)会員…黒淵様、教育委員ご就任おめでとうございます。
- ☆碓井会員…黒淵様、おめでとうございます。
- ☆鈴木(康)会員…黒淵様、おめでとうございます。
- ☆清水(泰)会員…お久しぶりです。
- ☆田山会員…儲かる話し有り難うございました。
- ☆小菅会員…本川先生、本日は有り難うございます。
- ☆植田会員…本川先生、本日は有り難うございます。
- ☆境野会員…本日はお世話になります。
- ☆宮内会員…イベントに欠席してしまい、申し訳ありません。

合計¥31000

出席報告

正会員数	72名	●	メイクアップ	3名
本日の出席者	37名	●	出席率	55.50%

出て来ます。楽観状態になりますよ。また幸福感に戻る。こういう循環ですよ。ですからこういう幸福感におぼれてはいけませんよと言うスピーチをやって、舌足らずで親族の皆さんから響きかう事があってですね、思いが伝わらない。

今の13,600円がはたして悲観の時なのか、懐疑の時なのか。私自身はですね、懐疑の状態だと思います。3人に1人は間違いなく今、下がると見て、こういう状態の時は、なかなか相場は崩れないでしょう。これが、5対1、10対1比率がどんどんかわってきます。そして、隣の奥さんも株を買きましょうよと。

ケネディーの親父さんが1929年大暴落の前夜何で売ったか、ご承知の方もいらっしゃると思いますけれども、靴磨きの坊やがおじさん僕も株で儲けているよ。それを聞いた瞬間彼は、全部株を売ってですね、ケネディー家財産がキープされた、という記録があります。

その後1929年大暴落に繋がっていくと、したがってですね幸福感というのは、絶頂というのはわからないのです。永遠に続く物だと1989年の12月、翌年バブルがはじけるとは、多分10人に1人もいなかった。いう風にですね、多分皆様方もですね、多分そうであったのではなかったかなと、いうふうに思っております。

ぜひですね少しでもご参考頂きまして、マーケッ

トというのは、嫌な言葉ですけども勝ち組、負け組がありますけども、ここにいらっしゃる方が全員、勝ち組になってですね、ご寄付されることをお祈り申し上げます。

有難う御座いました。

謝辞 内山会長

さて皆様、明日株を買いますでしょうか。どうでしょうか。腹八分目、大事ですね。本川様には、本日は大変貴重なうちくのあるお話を聞かせて頂きまして、大変有難う御座います。

ロータリーの中の情報というのもですね、坂本会員はですね、いつもあなたの商売どうですか？ あなたの商売、不動産儲かりますか？ どうですか？と聞いているのです。聞きながら株を買っているのではないかと、ロータリーで非常にメリットが会員のそれぞれ職業分類があってですね、その情報をすばらしく活かしているのではないかなと、いうふうに思います。

ただあの、寄付につきましては、儲かる人は語らずとっておりましたので、多分儲かっても言わないのかなと思います。ぜひ儲かった方は寄付を頂きたい。今、先生からもフォローがありました。ひとつ宜しくお願いします。

本日は大変どうも有難う御座いました。

